

### 10.3.2 地層の論理モデルの作成処理

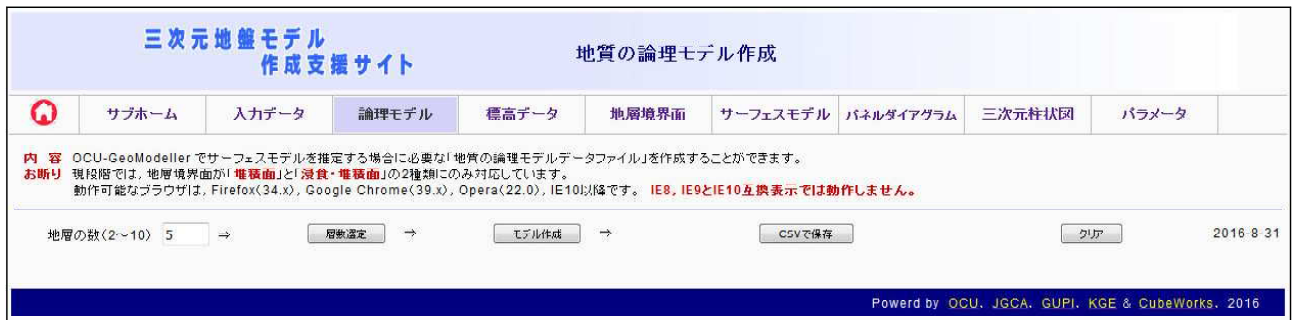


図-10.3.8 地質の論理モデル作成処理ページ

#### (1) 主な機能

- ・本ページで作成できる論理モデルは「10層」までとした。
- ・一番下の境界は「初期地表面」で固定し、地表面は「侵食面」で固定した。
- ・初期状態では、上記の2つの境界面以外は全て「堆積面」としたが、必要に応じて「侵食面」に変更することができる。
- ・論理モデルデータとして、「2.5 サーフェスモデルの推定処理」及び「2.6 准三次元断面図推定処理」で直接読み込みが可能なデータ形式を出力する。

#### (2) 主な操作方法

- ・[地層の数(2~10)]右の入力枠に表示されている数字(初期値=5)は変更できるので、必要な地層数を入力する。ただし、最大は10層である。
- ・数字を入力後、[層数確定]ボタンをクリックすると図-10.3.9 に示すように、地層のモデルイメージと堆積面/侵食面の選択画面が表示される。

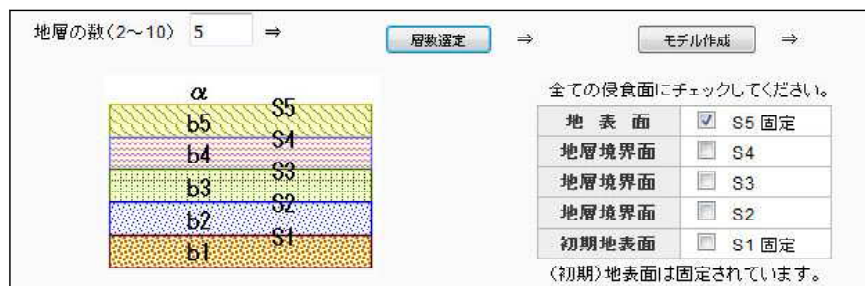


図-10.3.9 地層数の設定

- ・最下層の上面境界面(S1)と表層の上面境界面(Smax)は、それぞれ固定されている。
- ・一方、初期状態では中間の境界面(図-10.3.9 の場合S2~S4)は全て「堆積面」とみなしてあるが、チェックボタンを操作することにより「侵食面」に変更できる。
- ・[モデル作成]ボタンをクリックすると図-10.3.10 に示すように、論理モデルテーブルを表示する。
- ・論理モデルテーブルを確定後、[CSVで保存]ボタンをクリックして論理モデルデータを保存する(図-10.3.11 参照)。
- ・保存するデータ形式は「Shift-JIS」にすること。



図-10.3.10 堆積面/侵食面の設定(左)と論理モデル(右)



図-10.3.11 論理モデルテーブルの保存